

柏市長賞

納税への期待は

柏市立手賀中学校 第二学年 城野 亜姫

世界一幸せな国、と呼ばれる国をご存知だろうか。それはフィンランド。今私が訪れたい国ナンバーワンである。そのフィンランドは国連が発表する世界幸福度報告書で五年連続一位に選ばれ、コロナウィルス流行後も一位を維持している。これはかなりの功績らしく、犯罪率の低さや生活水準の高さ、充実した教育システムに理由があるらしい。私はなぜ税作文で世界一幸せな国について書き連ねているのか。実はフィンランドは税金が物凄く高いらしい。

私達に身近な消費税で考えてみると、日本の消費税は皆さんご存知十パーセント。三年ほど前に八パーセントからの引き上げに周りが不満を溢していた記憶が残っている。百円の買い物に十円、百万円の買い物に十万円である。桁が大きくなる毎に十パーセントの重みを感じられる。一方で、世界一幸せな国、フィンランドの消費税は驚異の二十四パーセント。百円の買い物に二十四円、百万円の買い物に二十四万円を消費税として納めなくてはならない。なんだか感覚がおかしくなりそうだが、これは世界的にみてもとても高いといえる。ここである疑問が生まれる。「こんなにも税金が高いのに何故世界一幸せな国なのか」である。普通に考えてしまえば一度の買い物で合計の値段から更に二割以上も持っていかれるなんて反乱でも起きるのではないかと心配になる。ところが、国民の八割以上はこれに満足しているそうだ。これはフィンランドの国民ひとりひとりが税金の使い道を理解し、納得しているからなんだそう。

フィンランドなどの北欧では、社会保障がとても充実しており、生まれてから死ぬまでの人生を国に保障されているといっても過言ではないようだ。小学校から大学院までの学費は一切かからない上、病気をした時の高度治療に育児保障と、例をあげればキリがないほど、国の制度が充実しているのだ。フィンランド人はホームレスなど見たことがないそう。

税金が自分たちの為、どのように使われているかを理解している人が多い、というのは重要なことだと感じた。勿論、日本でも私達国民の為に税金があるという事は理解しているつもりだが、納めた税金かどんなことに使われているのか詳しく答えられる日本人はどのくらいいるのだろうか。日本の国民も、税金が私達にどんな良いことをもたらしてくれているのかを正しく理解し、納得して納税する人が増えれば、自ずと国の幸福度も変化していくのだろう。年々上がる税金に自分の将来が不安になることもあるが、日本が世界一幸せな国になる日もそう遠くはないのかもしれないと期待を込めて納税義務を果たしたいと思う。